



曲のえん

ふたりのえん

もろえん

### トピックス

- 企画展示  
「江戸一目図屏風実物展示」  
同時開催「県指定記念 朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足展示」
- 第124回文化財めぐり
- 河井達海展協力

### 資料紹介

- 考古資料この一点③  
一近長丸山1号墳の鏡・玉・剣一  
小郷 利幸

### お知らせ

- 令和4年度 津山郷土博物館 行事予定

津山郷土博物館だより「つはく」

# 津博

TSUHAKU

## 2022.5 No.112



## 津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(鉄形蕙斎 略画苑(部分))

## 企画展示「江戸一目屏風実物展示」

しゅ うるし めり ほん こ ざね たく ぼく いと おどし どう まる く そく

### 県指定記念「朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足展示」 を開催しました。

津山藩松平家の御用絵師鋏形蕙斎が描いた「江戸一目図屏風」の実物を展示しました。また、「津山景観図屏風」、「人物略画式」、「吉野山図」などの鋏形蕙斎の作品もあわせて展示し、蕙斎づくしの展覧会となりました。

また、同時開催として、甲冑「朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足」が岡山県の重要文化財に指定されたことを記念し、展示しました。

さくら祭り・5月の大型連休期間もあり、多くの方にご来館いただき、蕙斎の世界、また、甲冑をご堪能いただきました。



江戸一目図屏風  
【岡山県指定重要文化財】



津山景観図屏風(右隻)  
【津山市指定重要文化財】  
(個人蔵)



朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足  
【岡山県指定重要文化財】  
(個人蔵)

## 第124回文化財めぐり ～宮尾・領家地区の文化財をめぐる～

○道の駅久米の里―宮尾遺跡・久米廃寺―藤和田神社―茶屋の一里塚―等覚寺―八幡神社―大日古墳―道の駅久米の里(参加者15名)

令和4年3月19日(土)津山市内宮尾・領家地区の文化財を中心にめぐりました。当日は曇り空の肌寒い日でしたが、なんとか雨も降らず無事に全行程を修了しました。宮尾遺跡と久米廃寺(県指定史跡)は中国自動車道の建設に伴い調査された遺跡で、宮尾遺跡は古代久米郡衙の役所跡、久米廃寺からは塑像仏(県指定重要文化財)なども出土し地方寺院としては珍しく、現地に残されている



八幡神社

る塔の心礎などを興味深く見学しました。その後、藤和田神社に向かい中山造りの社殿を見学、出雲往来を通過して、等覚寺の本堂、八幡神社の社殿、美作でも最大級の方墳である大日古墳(市指定史跡)と全行程5kmほどをめぐりました。

## 文化課文化振興係主催 河井達海展に協力しました。

3月4日(金)から3月16日(水)まで津山文化センターで河井達海展が開催されました。

大阪学芸大学(現:大阪教育大学)教授であった河井達海は、明治38年(1905)に津山市で生まれました。今回は平成29年にご遺族から寄贈を受けた作品を中心に出品しました。



文化センターでの展示の様子

# 考古資料③ — 近長丸山1号墳の鏡・玉・剣 —

ちかながまるやま

小郷 利幸

## はじめに

近長丸山1号墳の埋葬施設から鏡と玉と剣と一緒に出土し、津山郷土博物館の古墳時代のコーナーに展示している。これらはいわゆる古来より三種の神器と呼ばれ、權威の象徴とされるものである。本墳は直径20m程の円墳ではあるが、これら鏡など一連の出土が見られ特徴的であるため、出土品についての紹介と、市内出土の鏡と古墳の関係についても簡単にまとめた。

## 資料紹介

近長丸山1号墳は、近長地内にある古墳群で、平成3年に民間の開発事業に伴い3基の古墳が調査された(註1)。その内1号墳は直径20mの円墳で川原石による葺石が2重にめぐる。埋葬施設は6基あり、中心に木棺がありその周囲に竪穴式石槨、箱式石棺、土器棺などが配置されていた。調査当初比較的浅い位置で竪穴式石槨などが検出され、中心部には埋葬施設は見られなかった。筆者が調査担当であったが、中心部に必ず埋葬施設があると信じて、墳丘を掘り下げた結果、地表から1・1m下で木棺が検出された。このことから中心主体はかなり深い位置に埋葬されていたことがわ

かる。木棺の北小口側には川原石2個による枕石があり、ちょうど枕元に鏡1、玉(勾玉2・管玉16)、剣1がまとめて置かれていた。また、枕周辺が赤色を呈していて、朱が塗られていた(写真1)。

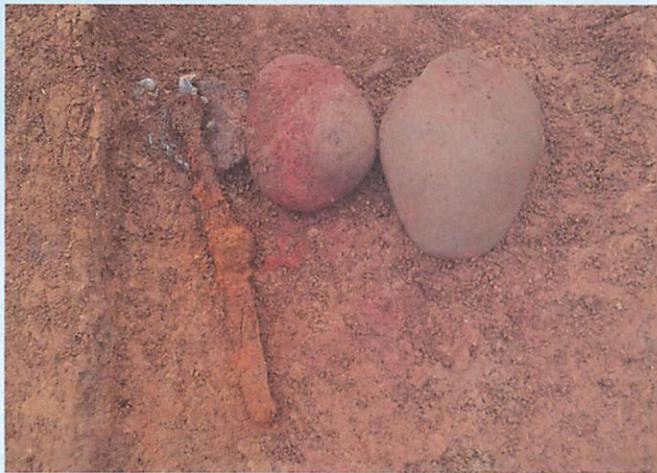


写真1 鏡・玉・剣の出土状況

## 鏡(図1-1)

1は仿製の内行花文鏡で直径9cmを測り、全体の3分の1の所でひびがはいっている。5花文で鈕との間に綾杉文風の文様が見られ、内区外周は斜行櫛歯文帯がめぐる。こ

の綾杉文風の文様が見られる鏡は、ほとんど知られていない。このため本例のような文様構成が特異な小型鏡は、「非畿内系」として周辺地域での製作も指摘される(註2)。

## 玉(同1-2、8)

2はヒスイ製の勾玉でC字形の中心も膨らんだいわゆる獸形勾玉と呼ばれるものである。長さ3・7cm、孔の部分で割れている。3はC字形で長さ1・6cmのヒスイ製の勾玉で、これら勾玉はいずれも緑色の濃い部分が多く、良質のヒスイで作られている。2の獸形勾玉は、県内で2例程知られており、岡山市の矢藤治山墳丘墓(図2-1、註3)、真庭市宮の前遺跡(同1-2、註4)があり、いずれもヒスイ製で、前者は中心の膨らみが方形、後者は膨らみが2箇所有りいずれもタイプが異なる。全国的には弥生時代のものも多く、九州地方に多い(註5)。さらに縄文時代からの系譜が指摘されている(註6)。

4、8は碧玉製の管玉で、全部で16点ある。長さは5・7、9・5mm、径は1・9、3・3mmの範囲に収まり、1mm前後の穿孔がある。

## 剣(同1-9)

9は長さ29・7cm、刃部幅2・5cm、厚

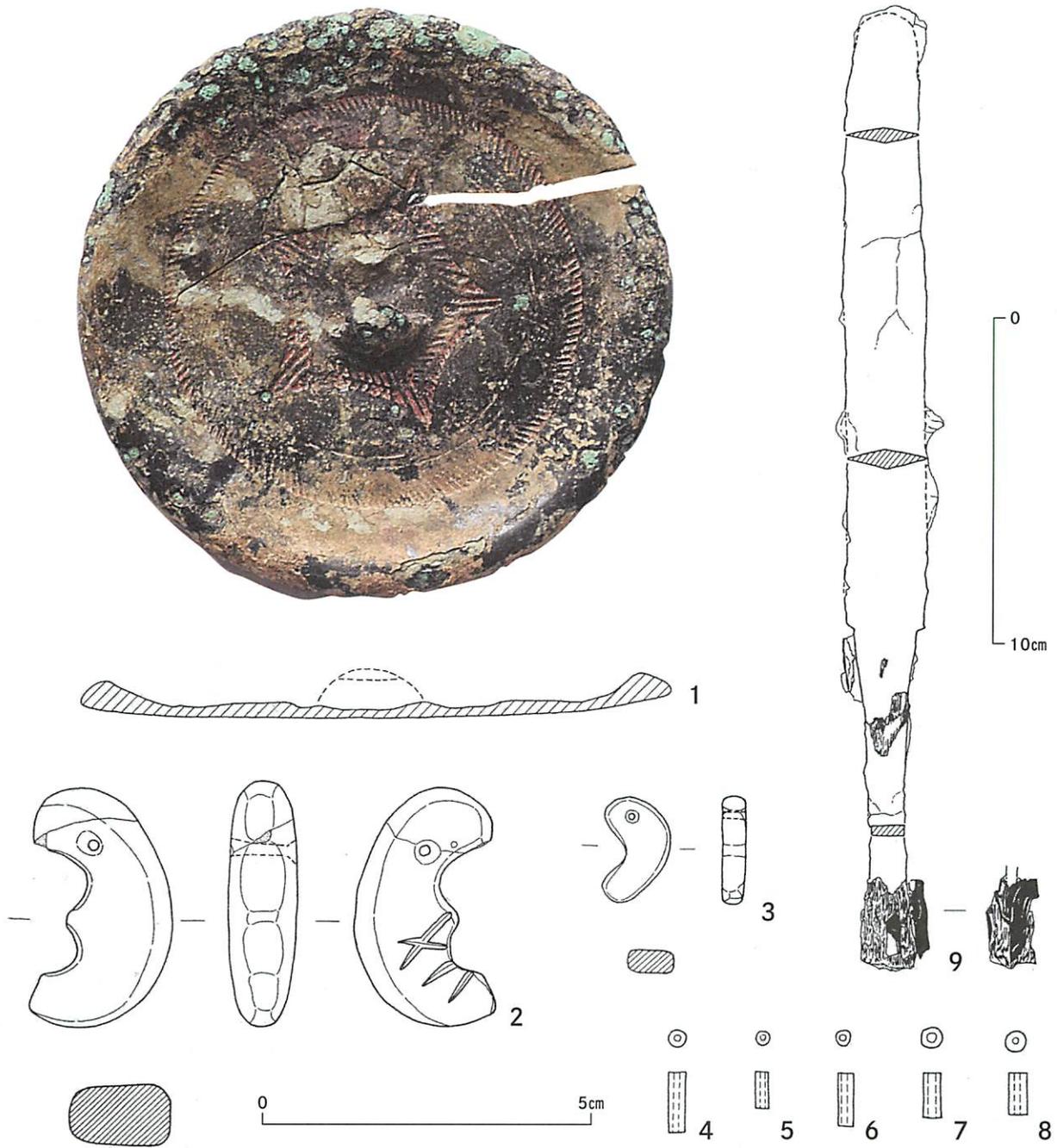


図1 近長丸山1号墳出土鏡・玉・剣 (1~8…S=1:1、9…S=1:2)

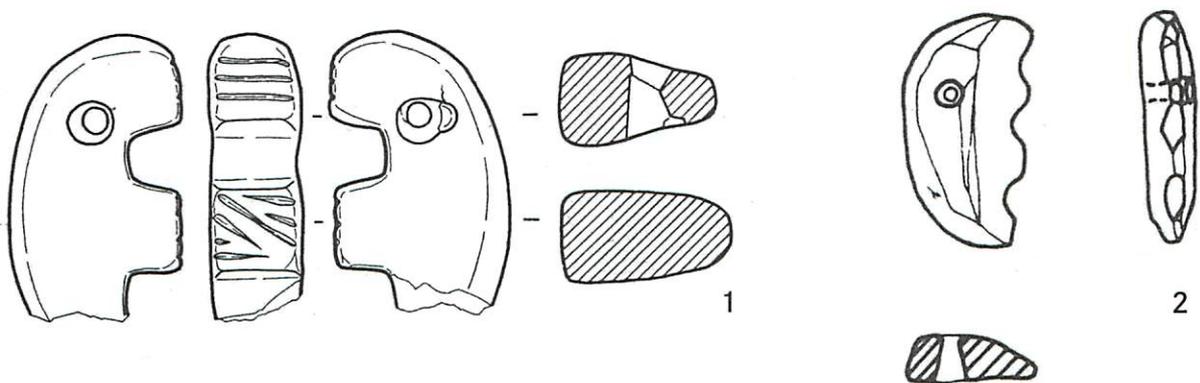


図2 獣形勾玉の類例 (S=1:1)

さ6mmの鉄剣で、茎には木質が残りその上に黒漆が塗られ、赤色で線刻されるが、残りが悪く模様全体像まではわからない。

### 津山市内出土の鏡と古墳について

市内出土の鏡については、本館の平成2年度の特別展図録『美作の鏡と古墳』（註7）に集成されている。それによると弥生時代も含め、市内で13遺跡17例が紹介されている。その後、本例と日上天王山古墳第2石槨（振文鏡、註8）と奥の前古墳前部木棺（内行花文鏡、註9）の3例が追加され、15遺跡20例となった（表1）。その中で、現存するものは本例を含め10例しかなく、その他は所在が不明である。現存するものは直径15cm以下の小型鏡のみで、20cmを超える大型鏡例えば三角縁神獸鏡などは、出土は知られているが不明なものが多い。その中で田邑丸山2号墳の三角縁神獸鏡について、写真撮影が行われて報告されている（註10）。筆者が同2号墳の確認調査にかかわったこともあり、その際に報告書をまとめるにあたり、この写真を再掲載した（註11）。市内で唯一確認された三角縁神獸鏡は、波文帯三神二獸博山炉鏡で、直径21・3cm、同范鏡が6面ある（註12）。同范鏡の古墳は、いずれも前方後円墳ないしは20m以上30m前後の円墳である。

### おわりに

近長丸山1号墳の鏡・玉・剣の紹介と市

内出土の鏡について簡単に紹介した。最後に鏡と古墳の関係についてまとめたい。

特に古墳の墳形規模と鏡の大きさの関係で言うと、本例のような10cm以下の鏡は、円墳では直径が20m以上のクラスを中心主体で、主に木棺ないしは竪穴式石槨からの出土が見られ、例外的に10m程の円墳の木棺である天満神社4号墳（註13）がある。前方後円墳で言うと後円部の中心主体ではなく、第2主体もしくは前方部の主体で、竪穴式石槨や木棺に見られるものが多い。ただ例外的に奥の前古墳や正仙塚古墳（註14）のように、後円部の中心主体に見られるものもある。ただこれら古墳はいずれも長持形石槨が埋葬施設であり、前者には鏡以外に、銅鏃、短甲など副葬品の種類が豊富であり、また後者は複数の鏡である事から、大きさのほかに鏡の数や副葬品の種類との関連が関係しているのかもしれない。

また、三角縁神獸鏡などの大形鏡は、類例は少ないが前方後円（方）墳の中心主体の竪穴式石槨に見られ、美作地域では、鏡野町郷観音山古墳（註15）があり、複数の鏡が埋納される。その事から鏡の大きさや数、墳形による序列があった事が窺え、鏡には色々な形式があるが、これらの違いと言うより、大きさや数に重きがおかれていたものと推測される。

さらにこれら鏡に玉、剣が加わることがさらなる威信財となり、前方後円墳のみならず本例のような円墳にも、これら序列が

如実に反映されている事がわかる良好な資料である。また、本鏡は前述のように「畿内系」との指摘もあり、以前に美作地域の前期古墳は、埴輪をもつ盟主的な前方後円墳と二重口縁壺をもつ在地的な前方後円墳など2系列あることを指摘した（註16）。まさに本墳は後者の在地的な梓組のなかで、鏡が配布されている可能性が考えられる。

### 註

（1）津山市教育委員会1992「近長丸山古墳群」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第41集』

（2）岩本崇2018「銅鏡・青銅製品」『前期古墳編年を再考する』

（3）矢藤治山墳丘墓発掘調査団1995『矢藤治山弥生墳丘墓』

（4）岡山県教育委員会1976「宮の前遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告12』

（5）福岡県吉武高木遺跡3号木棺、佐賀県宇木汲田遺跡K15など

（6）木下尚子1987「弥生定形勾玉考」『東アジアの考古学と歴史』

（7）津山郷土博物館1990「美作の鏡と古墳」『津山郷土博物館特別展図録第3冊』

（8）津山市教育委員会・日上天王山古墳発掘調査委員会1997「日上天王山古墳」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第60集』

（9）澤田秀実2020「奥の前1号墳」『新修津山市史資料編考古』澤田秀美氏にご教

示をえた。

(10) 今井堯1972「原始社会から古代国家の成立へ」『津山市史第1巻原始・古代』津山市  
 (11) 津山市土地開発公社・津山市教育委員会2000「田邑丸山古墳群ほか」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集』  
 (12) 掛迫第6号墳(広島県、円墳?・25m)、阿保親王塚古墳(兵庫県、現状は円墳・36m)、佐味田宝塚古墳(奈良県、前方後円墳・111.5m)、佐味田貝吹山古墳(奈良県、現状は円墳・30m)、円満寺古墳(岐阜県、前方後円墳・60m)、不明(京都国立博物館蔵)がある。  
 岡村秀典ほか1989『椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡』京都大学文学部  
 (13) 岡山県教育委員会1975「天神原遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告7』  
 (14) a 高橋健自・後藤守一1926『漢式鏡』、b 梅原末治1952「岡山県下の古墳発見の古鏡」『吉備考古第85号』  
 (15) 註(7)、梅原末治1938「美作郷村観音山古墳」『近畿地方古墳墓の調査』日本古文化研究所  
 (16) 小郷利幸2021「考古資料この一点②」日上天王山古墳の二重口縁壺」『津博No.109』  
 表1註  
 ①註(1)  
 ②註(13)  
 ③註(7)、本村豪章1980「古墳時代の基礎研究稿―資料篇(Ⅰ)―」『東京国立博

物館紀要第16号』  
 ④註(7) 津山市教育委員会2007「日上畝山古墳群Ⅱ」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第78集』  
 ⑤註(10)  
 ⑥ 本村豪章1974「美作・津山市兼田丸山古墳出土遺物の研究」『MUSEUM No.285』  
 ⑦ 秋久秀二郎1900「岡山懸下勝田郡國分寺附近探検の記」『考古第1編第6號』  
 ⑧ 註(14) a b  
 ⑨ 註(14) b  
 ⑩ 註(10)、津山市教育委員会1983「津山の文化財」  
 ⑪ 御船恭平1959「美作における弥生時代の墳墓について」『古代学研究第21・22号』古代学研究会  
 ⑫ 註(11)  
 ⑬ 註(7)(9)  
 ⑭ 註(9)  
 ⑮ 岡山県教育委員会1979「久米三成4号墳」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告30』  
 ⑯ 註(8)

No.	古墳名	墳形・規模	埋葬施設	鏡形式	面径(cm)	備考	註
1	近長丸山1号墳	円墳(20)	木棺	内行花文鏡	9	本館展示	①
2	天満神社4号墳	円墳(8)	木棺	方格規矩鏡	9.1	本館蔵	②
3	根山1号墳	円墳(15)	箱式石棺	変形獣形鏡	9	東京国立博物館蔵(21066)	③
4	日上畝山58号墳	前方後円墳(32)	堅穴式石槨?	五獣鏡	15.2	所在不明、旧80号墳	④
5	河面丸山1号墳	方墳(24)	箱式石棺	不明		所在不明	⑤
6	兼田丸山古墳	円墳?	箱式石棺	四獣鏡	8.1	東京国立博物館蔵(6064)	⑥
7	(畝山)			不明		所在不明	⑦
8	正仙塚古墳	前方後円墳(56)	長持形石棺	四獣鏡	10	所在不明	⑧
9	正仙塚古墳	前方後円墳(56)	長持形石棺	半円方形帯神獣鏡	11.8	所在不明	⑨
10	樋ノ内池南遺跡			鋸歯文鏡	8.4	工事中に発見、本館蔵	⑩
11	下道山遺跡			内行花文鏡	9.5	弥生墳墓で採集、所在不明	⑪
12	田邑丸山1号墳	円墳(36)	堅穴式石槨	乳文鏡	9.8	東京国立博物館蔵(21031)	⑫
13	田邑丸山2号墳	前方後方墳(40)	堅穴式石槨	三角縁神獣鏡	23.3	個人蔵(所在未確認)	⑫
14	田邑丸山2号墳	前方後方墳(40)	堅穴式石槨	不明		所在不明	⑫
15	田邑丸山2号墳	前方後方墳(40)	堅穴式石槨	不明		所在不明	⑫
16	田邑丸山2号墳	前方後方墳(40)	堅穴式石槨	不明		所在不明	⑫
17	奥の前1号墳	前方後円墳(68)	長持形石棺	内行花文鏡	10.1	個人蔵、津山市指定重要文化財	⑬
18	奥の前1号墳	前方後円墳(68)	木棺(前方部)	内行花文鏡	7.5	奥の前1号墳発掘調査団保管	⑭
19	久米三成4号墳	前方後方墳(35)	箱式石棺	四獣鏡	12	久米歴史民俗資料館展示	⑮
20	日上天王山古墳	前方後円墳(56.9)	第2堅穴式石槨	捩文鏡	7.9	津山弥生の里文化財センター蔵	⑯

表1 津山市内出土鏡一覧

## 令和4年度 津山郷土博物館 行事予定

※新型コロナウイルスの影響で変更する可能性があります。  
詳細は決定次第ホームページなどに掲載いたします。

### ◆特別展・企画展など

- 企画展示「江戸一目図屏風実物展示」  
同時開催「県指定記念 朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足展示」  
〈会期〉4月1日(金)～5月8日(日)
  - ミニ企画展「庄野ヒカル(仮)」  
〈会期〉6月18日(土)～7月31日(日)
  - ミニ企画展「世界の布Ⅲ(仮)」  
〈会期〉8月6日(土)～9月11日(日)
  - 特別展「博学弁才無双 津山藩主松平康哉(仮)」  
〈会期〉10月29日(土)～12月18日(日)
- この他にもさまざまな企画展を開催する予定です。

### ◆出版

- 特別展図録「博学弁才無双 津山藩主松平康哉(仮)」の刊行
- 津山松平藩町奉行日記29の刊行
- 令和3年度年報の刊行

### ◆広報活動

- 博物館だより「津博」  
No.112：5月 No.113：8月 No.114：11月 No.115：2月

### ◆教育普及活動

- 古文書講座 全9回
- 歴史講座 全9回
- 夏休み子供歴史講座
- 文化財めぐり(友の会)  
5月14日、11月、3月



博物館だより「つはく」  
No.112 令和4年5月31日



【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92  
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874  
E-mail tsu-haku@tv.tn.ne.jp

【印刷】有限会社 弘文社

### 入館のご案内

- 【開館時間】午前9:00～午後5:00  
【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日  
年末年始(12月29日～1月3日)・その他  
【入館料】一般…300円(30人以上の団体の場合240円)  
高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)  
65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

♣は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。